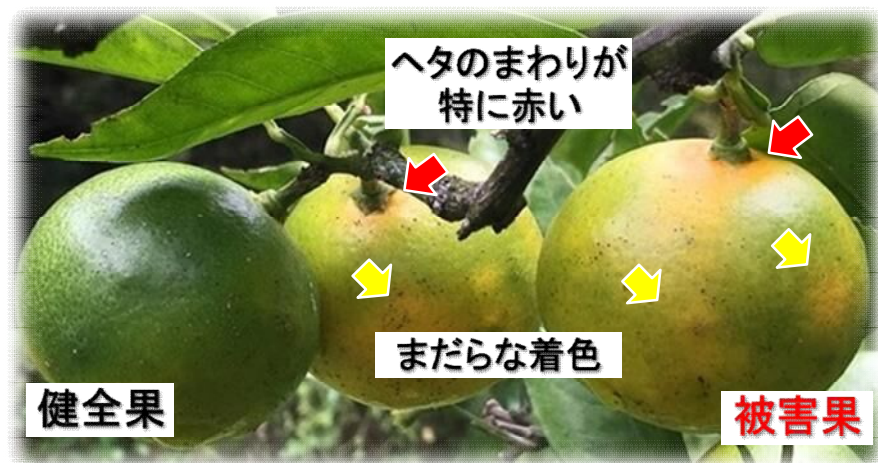


～ かんきつ類の生産者の皆様へのお願い ～
ミカンバエ被害果の流通防止について

かんきつ類の収穫、選果・袋詰めの際は
ミカンバエの被害果が混入しないよう注意しましょう！

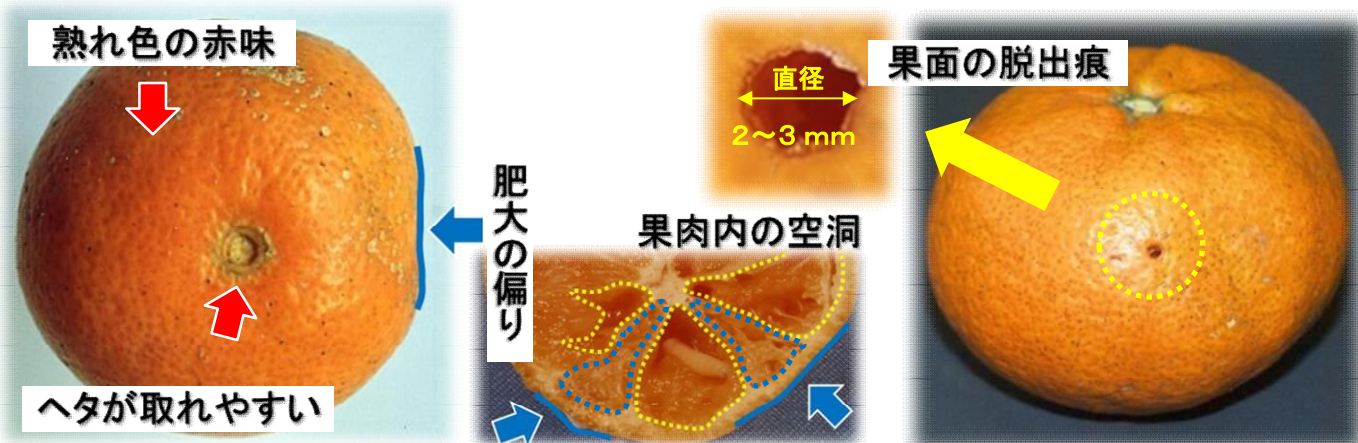
👉【被害果の特徴：着色初期～収穫期】

- 健全果よりもまだらに着色しはじめる。
- 熟れ色（特にへタのまわり）が赤く、へタが取れやすい。
- 果肉を食害されているため、健全果よりも軽い。



👉【被害果の特徴：選果・袋詰め】

- 熟れ色の赤味が強い。
- へタが取れやすい。
- 果肉を食害されているため、健全果よりも軽い。
- 果実を上から見ると肥大に偏りがあり、指で押すと凹む。
- 果皮に直径2～3mmの穴（脱出痕）が開いている。

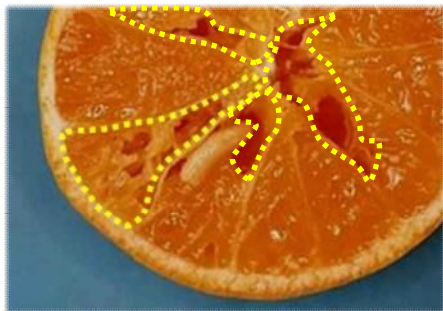


かんきつ類の害虫「ミカンバエ」とは

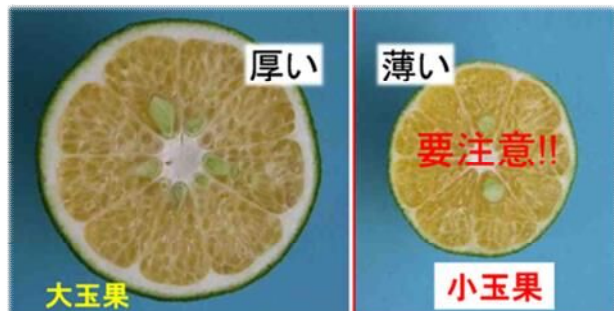
- ◆みかん等の果実内部に産卵し、幼虫が果肉を食害する在来害虫です。
- ◆産卵期の7月～8月頃に果皮の厚さが薄い（概ね4mm以下）と被害を受ける可能性があります（温州みかん、ぽんかん、はるみ、小みかん、花柚子等）。
- ◆同じ品種でも果皮が薄い小玉果は被害を受ける可能性があります。



↑ミカンバエ成虫
(体長10～12mm)



↑3齢幼虫による食害
(果肉に大きな空洞を生じる)



↑同じ品種でも果皮の薄い小玉果は要注意

防 除 対 策

- ◆農薬散布（成虫・幼虫防除）だけでなく、被害果の摘採及び適切に廃棄処分を行うことで、次年度のミカンバエ発生を抑えることができます。
- ◆管理できずに荒廃のおそれのある園に対しては、伐採が有効な防除手段です。
- ◆被害果が流通し消費者が果実内の幼虫を見つけると、県産みかん全体のイメージダウンにつながり、産地は大きな打撃を受けてしまいます。
- ◆防除対策が確実に実施されれば被害果が流通することはほとんどありませんが、一部の無防除園、管理不良園から直売所等への出荷が問題となっています。
- ◆県では条例を制定し、かんきつ産地の市町、農業団体及び生産者と協力・連携し、発生状況の検査、防除の徹底、被害果の流通防止に取り組んでいます。

被害果発見のポイント

- ▽被害果を見つけやすい時期は着色開始直前
- ▽山際や防風林際などの日陰は要注意
- ▽異常に着色の早い果実やまだらな着色果はないか
- ▽果皮に産卵痕や脱出痕はないか(虫メガネで確認)
- ▽ヘタから外れて落ちている果実はないか(樹冠下)
- ▽樹(枝)を軽く揺すって落ちる果実はないか
- ▽落ちた果実内に幼虫が寄生していないか



➤放任園の被害



➤日陰の被害



➤樹上の被害果



➤落果した被害果